

あいちトリエンナーレへの補助金不採択撤回！ #1002 文化庁前抗議

9月25日、「あいちトリエンナーレ2019」検証委員会が中間報告を発表、「表現の不自由展・その後」について「条件が整い次第速やかに開催すべき」と提言、大村秀章・愛知県知事は「本来実施されるべきものを本来の姿に戻したい」と、再開に向けた動きが出てきています。

しかしその翌26日に萩生田光一文科相が、採択を決めていた「あいちトリエンナーレ2019」への文化庁からの補助金7800万円を全額交付しないと発表。

いったん採択した補助金の交付を、問題への説明不足という理由で文化庁が補助金全額不交付にするという異例の処置が行われました。

安全を害したから補助金を交付しないとすると、恫喝・脅迫により表現活動が中止させられたという事態を国家が許容・追認することになりかねません。

菅官房長官は補助金不採択について「具体的内容は関係ない」と言っておりますが、「審査の時点では、具体的な展示内容の記載はなかったことから、補助金の交付決定では事実関係を確認、精査したうえで適切に対応していきたい」と8/2に発言しており、「行政の要人によるこうした発言は政治的圧力そのものであり、憲法が禁じている『検閲』にもつながるものである」と日本ペンクラブの声明でも指摘されています。

今回の前例を作ってしまうと、今後の企画展や文化事業において物議をかもしような作品の発表への萎縮を招き、表現者の表現の自由を制限するだけでなく、社会全体で様々な表現に触れる機会が減ってしまい、議論や思考の機会も奪われてしまいます。

しかしこの動きはこの一件だけに限った話ではありません。様々な場所で政権の意向に沿わない政治的な活動、表現に対する行政の忖度的萎縮ムードとも呼べるような動きはすでに始まっており、その延長線上で、市民運動・街頭活動を行う私たちに対しても妨害行為が珍しくなくなっているのが現状です。

ここで「あいちトリエンナーレ」への文化庁による補助金全額不交付を認めてしまっただけでは、アート分野に限らず、将来的に様々な自由な表現に対する政治介入、弾圧を許してしまうことになりかねないと大変な危機感をもっております。

誰かを傷つけない限り、憲法21条の表現の自由が保障される社会であるために声を上げたいと思います。

10/2 (水) 18:30～約1時間 文化庁前にて抗議行動を行います。

ぜひ多くの方々のご参加をよろしくお願いいたします。

(ハッシュタグ #1002 文化庁前抗議)

憲法9条を壊すな実行委員会街宣チーム

コール案

検閲反対
憲法守れ
文化庁は表現守れ

政治介入絶対させるな
政治介入絶対許すな
表現の自由おびやかすな
被害者よりそえ
脅迫行為を肯定するな
脅迫行為を追認するな

補助金カットの理由がおかしい
補助金カットあり得ない
補助金カットは誰のため？
補助金不交付今すぐ撤回

トリエンナーレに、圧力かけるな
日韓友好
嫌韓あおるな
加害の歴史を忘れるな
戦争犯罪事実に向き合え
性暴力を許さない
女性差別を許さない
差別されない権利を守れ
天皇制をタブーにするな
議論ができる社会を守れ
表現の自由侵害するな

「多様な価値」を活かして下さい（文化芸術推進基本計画に書いてある）